

## 実践のまとめ（第2学年 社会科）

長岡市立宮内中学校 教諭 笠輪 敬

### 1 研究テーマ

**SDGsの視点を取り入れ、地理的な見方・考え方を働かせ、地域や世界の課題を主体的に解決しようとする生徒の育成 ～ICTを活用した協働的な学びを通して～**

### 2 研究テーマについて

#### (1) テーマ設定の意図

私の従来の社会科地理的分野の授業は、事象を網羅的に扱うことに終始し、事象を暗記するような学習方法だった。従来の暗記に頼る学習方法では、学習指導要領における「深い学び」を実現することはできない。また、「知識・技能が相互に関連付けられ、構造化されたり身体化されたりして高度化し、適正な態度や汎用的な能力、概念的な知識となつて、自由自在に使いこなせるように“駆動”する状態には辿り着けない。

そこで本実践では、地理的分野日本の諸地域の近畿地方の学習において、以下の4点を推進していく。

- ① 近畿地方の課題について、世界的課題であるSDGsに照らし合わせて考えること
- ② 近畿地方の課題について、地理的な見方・考え方を働かせて、思考を巡らすこと
- ③ ①、②を通して、地域や世界の諸課題の解決策を主体的に考えること

これらのことによって、1つ1つの事象が散在するのではなく、つながりをもって構造化され、自由自在に使いこなせるようになることを目指したい。これらのことと同時に、以下の点も推進したい。

- ④ ICTを用いて、級友やインターネットとつながること

ICTを駆使して、協働的な学びを展開することを仕組み、1人では考えつかないようなことに気づけるようにしていく。

#### (2) 研究テーマに迫るために

- ① 近畿地方の課題について、世界的課題であるSDGsに照らし合わせて考える

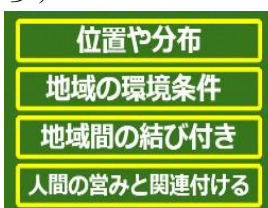
当校では今年度、総合的な学習の時間においてSDGsの視点を取り入れた課題解決学習を展開している。2学年では、SDGsに関する以下のような学習を展開してきた。

- ・年度当初に外部講師を招いて、SDGsの概論を学んだ。
- ・夏休みに社会科の宿題で、SDGsに関する調べ学習の課題を出題し、レポートでまとめた。
- ・職業体験学習において、学区内の各企業がSDGsに関わるどのような取組をしているか学んだ。
- ・修学旅行の事前学習では、近畿地方と新潟県中越地方でのSDGsに関わる課題解決方法に共通点、相違点はあるかを調べる。

以上のように、生徒たちはSDGsについて考えながら学習を展開してきた。また、昨年度から、社会科地理的分野の世界の諸地域学習において、意図的にSDGsに関わる課題設定をして、授業を展開してきた。このようにSDGsに関する学習を充実させてきた背景が、本実践の土台となることを期待する。

- ② 近畿地方の課題について、地理的な見方・考え方を働かせて、思考を巡らす

2学年の地理的分野の学習では、右のような掲示物をつくって、意図的に地理的な見方・考え方を生徒たちが働かせることができるように仕組んできた。例えば、「今日は位置と分布という見方を働かせて、日本のどのような場所にどんな海岸地形があるか見つけて、人間生活の営みの観点からどの地形がどのように利用されているか探ろう」等の課題設定をしてきた。これらの積み重ねが本実践でも生かされることを期待したい。



- ③ ①、②を通して、地域や世界の諸課題の解決策を主体的に考える

①、②の土台があった上で、さらに重要になってくるのが課題設定である。単元を包括するような課題を設定することで、地域に関して網羅的に重要事項等を学習するだけに留まらない

ようにしたい。また、近畿地方の課題と世界的な課題を照らし合わせて考えさせることで、生徒が主体的かつ未来志向の思考を巡らせることを期待したい。

④ ICTを用いた協働的な学び

グーグルスライドの共同編集機能を使って、班ごとに1つのスライドを複数人で編集できるようにする。他者からの助言等によって、自分1人では考えつかない知見に気づいたり、自分の考えを補強したりすることを期待したい。また、自分の意見を発表する際にスライドを使うことで誰がどのような意見なのか可視化しながら議論がスムーズに進むようにしたい。

(3) 研究テーマに関わる評価

本時の学習課題への解答の評価について、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度、それぞれがB評価以上の生徒が80%以上になる。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

第3章 日本の諸地域 ③近畿地方 (中学社会 地理 地域に学ぶ 教育出版)

(2) 単元の目標

地域内外との結び付き、人間の営みとの関連という見方・考え方を働かせて、近畿地方の生活(景観保全、工業、都市の成り立ち、環境保全)がどのように変化したのか、変化に伴うメリット・デメリットはどのようなことか考えをまとめる。また、SDGsの視点を用いて、今後の近畿地方および世界的課題の解決に向けてどのような解決策があるか探る。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近畿地方の特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。	近畿地方に関する地域の広がりや地域内外の結び付き、人間の営みとの関連などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。その際に、ICT機器を協働的に用いて、主体的・対話的に学んでいる。	近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全8時間、本時5/8時間)

※表内の【 】は地理的な見方・考え方を示す。SDGs○は関連するSDGsの目標の番号を示す。

次(時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
<b>SDGsの視点、地理的な見方・考え方を働かせて、近畿地方の課題を見出して、その解決策を理解したり、議論したりしよう。そして、自分なりの解決策を導きだそう。</b>			
1次 1時間	・近畿地方の特色を歴史的背景と多様な自然環境の視点で理解する。 【位置や分布】 【地域の環境条件】	◎近畿地方はなぜ、諸外国や日本の諸地域との交流が盛んなのか説明しよう。 ◎山脈や川の分布を白地図上にまとめよう。	<u>知識・技能</u> 近畿地方の歴史的背景と自然環境などの地理的特色を理解している。 【ノート、ワークシート】
2次 1時間	阪神工業地帯の過去と今 SDGs 9 【地域の環境条件】 【地域間の結び付き】 【人間の営みと関連付ける】	◎阪神工業地帯が今後、発展していくためのポイントについて、SDGsの視点を踏まえて考えよう。	<u>思考・判断・表現</u> 教科書等やSDGsに関するサイトを参考にして、発展のための方法を説明することができる。 【ノート】

<p>3次 1時間</p>	<p>大都市への人口集中 SDG s 11 【位置や分布】 【地域の環境条件】 【地域間の結び付き】 【人間の営みと関連付ける】</p>	<p>◎京阪神大都市圏への一極集中のメリット・デメリットを考えよう。それを通じて、持続可能なまちづくりについて考えよう。</p>	<p><b>思考・判断・表現</b> 人口流出入が及ぼす人々への影響についてまとめ、持続可能なまちづくりについて自分の考えを表現している。 【ノート】</p>
<p>4次 1時間</p>	<p>京都市は古都の景観保全のためにどのような取組をしているか。 SDG s 11 【地域の環境条件】 【人間の営みと関連付ける】</p>	<p>◎なぜ京都市内の看板の様子は他の都市と異なるのか考えよう。 ◎京都市の景観保全の取組について内容をまとめよう。</p>	<p><b>思考・判断・表現</b> 京都市が景観保全をしている理由と人々の生活への影響について説明できる。 【ノート】</p>
<p><b>京都市における持続可能なまちづくりについて、どのような解決策があるか考えよう。</b></p>			
<p>5次 2時間 (本時)</p>	<p>・4次で学習した内容を掘り下げる学習課題を提示する。SDG s 11 ・学習課題に対する答えを協働的に思考し、議論し、自分なりの解決策を考える。 【地域の環境条件】 【地域間の結び付き】 【人間の営みと関連付ける】</p>	<p>◎学習課題について、以下の視点から考えよう。 ・今までの京都の景観の持続可能性を大切にする。 ・キーウのためにも持続可能な新しい京都の景観をつくる。</p>	<p><b>思考・判断・表現</b> 協働的な学習を通じて、多面的・多角的に考察し、考えを表現している。 【観察、ノート】</p> <p><b>主体的に学習に取り組む態度</b> よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し、自分なりの解決策を導き出す。 【タブレット、ノート】</p>
	<p>・5次の1時間目を振り返るために生徒が導き出した解決策を紹介する。 ・解決策を紹介しながら、現実に行われている対策と結びつけて紹介する。SDG s 11 【地域の環境条件】 【地域間の結び付き】 【人間の営みと関連付ける】</p>	<p>◎持続可能なまちづくりのためにはどうするとよいだろうか。紹介された解決策や現実に行われている対策を元に、前の時間に書き始めた振り返りをさらに補強しよう。</p>	<p><b>思考・判断・表現</b> 協働的な学習を通じて、多面的・多角的に考察し、考えを表現している。 【ノート】</p> <p><b>主体的に学習に取り組む態度</b> よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し、自分なりの解決策を導き出す。 【ノート】</p>
<p>6次 1時間</p>	<p>琵琶湖の開発と環境保全 SDG s 6 SDG s 14 【地域の環境条件】 【地域間の結び付き】 【人間の営みと関連付ける】</p>	<p>◎琵琶湖の環境保全について目的と方法をまとめよう。</p>	<p><b>思考・判断・表現</b> 目的と方法をまとめている。 【ノート】</p>

<b>SDGsの視点、地理的な見方・考え方を働かせて、近畿地方の課題を見出して、その解決策を理解したり、議論したりしよう。そして、自分なりの解決策を導きだそう。</b>		
7次 1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全時間に関する単元の振り返りを行う。</li> <li>【位置や分布】</li> <li>【地域の環境条件】</li> <li>【地域間の結び付き】</li> <li>【人間の営みと関連付ける】</li> </ul>	<p>◎近畿地方の学習を振り返りシートにまとめよう。</p> <p><b>知識・技能</b> 近畿地方の歴史的背景と自然環境などの地理的特色を理解している。【ワークシート】</p> <p><b>思考・判断・表現</b> 近畿地方に関する地域の広がりや地域内外の結び付き、人間の営みとの関連などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 【ワークシート】</p> <p><b>主体的に学習に取り組む態度</b> 近畿地方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 【ワークシート】</p>

#### 4 単元と生徒

##### (1) 単元について

1次ごとの学習内容を理解して、日本の諸地域に関する知見を深めていくのが従来の学習方法だった。しかし、それでは学習内容を網羅的に扱うことに留まり、生きて働く知識にはならない。知識を活かし、構造化する時に必要なことは、見方・考え方を働かせて、学習内容についてまとめることである。また、SDGsについて考えることも取り入れ、日本の諸地域の課題や世界の諸課題を探ることも学んだ知識を活かすために適していると考ええる。

##### (2) 生徒の実態

本クラスの生徒は、男子16名、女子16名、計32名である。学習への前向きさがあり、話し合いや教え合いの時間を設定すると、隣同士や班ごとに積極的に関わることができる。また、昨年度からSDGsに関する学習を進めてきているので、そのことを使って物事を思考することにも慣れていていると考えられる。社会科や理科について、いわゆる暗記科目という認識があり、覚えることに終始しがちな生徒が多い中、今回の実践によって、知識を活用することが課題解決につながり、結果として、知識の定着につながることを生徒たちに実感してもらいたい。

#### 5 本時の展開（令和4年11月29日実施）

##### (1) ねらい

- ・SDGsの視点や地理的な見方・考え方を働かせて、京都市における景観保全とウクライナ支援を関連付けて多面的・多角的に考察し、考えを表現する。
- ・京都市の景観保全やまちづくりについて、互いに意見を交流させ、協働的に学びを進め、最終的には、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し、自分なりの解決策を導き出す。

##### (2) 展開の構想

本時では、前時までに学習した近畿地方に関する内容を踏まえながら、世界的な視野をもって思考することが問われる。1人では考えることが難しい課題かもしれないが、協働的に学び、対話を繰り返すことで、やがて個の思考が養われることを期待したい。

(3) 展開 ※ピクトグラムは新潟県立教育センター「主体的・対話的で深い学び」の推進から引用

時間 (分)	学習活動	○教師の働き掛け ・予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
10	学習テーマの確認  主 見通しを待つ  主 興味や関心を高める	○スライドで学習テーマを説明し、ノートにテーマ等を記入させる。 ・京都市とキーウ市が姉妹都市であることを知り、驚く。 ・説明を聞いた時点での意思表示カードを提示する。	◇時間をかけすぎず、簡潔に分かりやすく説明する。 ○説明時に話の内容や意味が通じていない生徒に伝わるように繰り返し説明する。
<b>京都市における持続可能なまちづくりについて、どのような解決策があるか考えよう。</b>			
30	持続可能なまちづくりについて考える（班活動による協働的学習）。  班ごとにスライドを発表する。	○4人班で意見を交わし合いながらスライドを完成させる。  対 思考を表現に置き換える  対 共に考えを創り上げる  ○代表班を指定して発表させる。	<b>思・判・表</b> 多面的・多角的に考察し、考えを表現していることをスライドの内容等から評価する。  ◇意見交流が滞っている班への声掛け
10	○振り返り	○個人で学習課題に対する考えをまとめさせる。  ○数名に発表させる。  深 自分の考えを形成する  深 新たなものを創り上げる  深 自分の思いや考えと結び付ける	<b>思・判・表</b> 多面的・多角的に考察し、考えを表現していることを振り返りの文章から評価する。  <b>態</b> よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し、自分なりの解決策を導き出していることを振り返りの文章から評価する。

(4) 評価

・SDGsの視点や地理的な見方・考え方を働かせて、京都市における景観保全とウクライナ支援を関連付けて多面的・多角的に考察し、考えを表現することができる。

(思考・判断・表現)

・京都市の景観保全やまちづくりについて、各自の意見を互いに交流させ、協働的に学びを進め、最終的には、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し、自分なりの解決策を導き出すことができる。  
(主体的に学習に取り組む態度)

## 6 実践を振り返って

### (1) 授業の実際

- ① 近畿地方の課題について、世界的課題であるSDGsに照らし合わせて考える

単元を通して、「SDGsでは全体を通して誰一人取り残さないことを目指します」とか「この時間はSDGsの〇番について考えます」というふうに視点を明確にして学習を進めることを続けた。その結果、本時の「持続可能なまちづくり」について考える際には、生徒たちの発言や意見発表等の学習場面から、SDGsの考え方が生徒たちに浸透していると感じることができた。世界的課題であるSDGsを軸として学習を進めたことで、近畿地方について、ただ網羅的に扱うことなく、SDGsという軸を中心に地域に関する知識と知識をつなぎ合わせて、自分たちの考えを駆動させることができたと言える。

- ② 近畿地方の課題について、地理的な見方・考え方を働かせて、思考を巡らす

①と同様、見方・考え方という軸をもって近畿地方を見ることができた。例えば、本時では「地域の環境条件」や「地域間の結び付き」という見方で京都を見た時に、過密地域と過疎地域とを結びつけることによって、まちづくりを推進できるのではないかと考える生徒が多かった。見方・考え方を働かせることは、生徒にとってどのような視点で学習を進めればよいかを示すコンパスのような機能を果たすものだと考えている。これからも社会科のどの分野でも共通して、実践していきたいと考えている。

- ③ ①、②を通して、地域や世界の諸課題の解決策を主体的に考える

①や②が実践できたことによって、主体的に学習に取り組む生徒が増えたと考えられる（本時の学習課題への解答の評価について、主体的に学習に取り組む態度におけるB評価以上の生徒が88%。6(2)参照）。生徒の主体性を育む上で、学習内容を網羅的に扱うことに留めず、SDGsや地理的な見方・考え方という一定の軸をもって考えさせることをこれからも継続していきたい。

- ④ ICTを用いた協働的な学び

タブレット端末を用いる前に各自の意見を発表する時間を確保して、そのことについて意見交流する時間をつくったり、ノートに自らの意見をまとめる時間を確保したりした。なお、意見交流の際には、各自のタブレット端末を自らの意見を発表するフリップのように使わせ、考えを可視化するようにした（図1）。それらの活動をした上で、学習テーマに対して、各生徒が-googleJamボードを使って共同編集するようにした。事前にさまざまな意見のやり取りがないまま、タブレット端末上で共同編集するだけだと思考が働かず、タブレット端末の画面を見るだけになってしまう。そこで、上記のように意見交流の時間を十分に確保することが重要であると考え、実践した。実際、タブレット端末上で考えを共同編集する際は、あらかじめ交わした意見を再度確認し合いながら入力する姿が見られた

（図2）。また、共同編集して完成した成果物を用いて、全体発表することもできた。模造紙等で発表することと比較して、画面上で拡大表示ができるので、全員が発表内容を把握しやすく、考えを広めることができた（図3）。

このように、ICT機器を駆使することで協働的に学習を展開することができた。

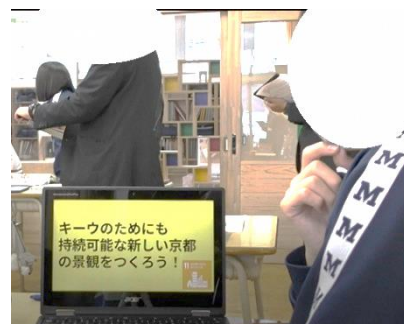


図1 タブレット端末のフリップ化



図2 話しながら共同編集の様子



図3 発表の様子

## (2) 研究テーマについて

生徒たちにSDGsや地理的な見方・考え方の軸をもって諸事象を捉える場を設定したことで、生徒はさまざまな事象をただ覚えるというのではなく、「この見方からすると～」とか「SDGsの9番からすると～」のように事象を捉えたり、説明したりすることができた。生徒の様子を見て、考え方の視点がはっきりしていると物事を考えやすいということを感じることができた。また、本時の場合は、「今」起きている世界的話題であるウクライナに関する問題を取り扱ったことで、SDGsとも関連付けることができた。今現在の問題であるという切迫感をもって課題を考えることで、よりリアルな世界とのつながりを実感しながら学習できたと考えられる。

ICTを用いた協働的な学びについては、グーグルジャムボードを使ったことで自らの意見を発信すると同時に、他者の意見を瞬時に把握することができたので、意見交換をスムーズに行うことができた。また、班ごとのジャムボードを全体に発表する際は、班で使っているタブレットを、グーグルキャストを用いてテレビモニターとつなぐことで、全体に向けて可視化することができた。このことによって、多様な考え方を全体で共有することができた。

本時の学習課題への解答の評価について集計した結果、思考・判断・表現では、B評価以上が92%、主体的に学習に取り組む態度では、B評価以上が88%となった。掲げた研究テーマに沿って、実践を行った結果、多くの生徒が、SDGsの視点を取り入れ、地理的な見方・考え方を働かせて、地域や世界の課題を主体的に解決しようとしたと言える結果となった(図4)。

### 思考・判断・表現

SDGsの視点や地理的な見方・考え方を働かせて、京都市における景観保全とウクライナ支援を関連付けて多面的・多角的に考察し、考えを表現することができる。

- A：京都市の景観を守ること、および、新しい京都市のまちづくりを創造することについて多面的・多角的に思考し、それぞれの意見に対する理由付けや方法を、既習事項を元に導き出したり、自らの発想で考えを表現している。
- B：京都市の景観を守ること、および、新しい京都市のまちづくりを創造することについて多面的・多角的に思考し、それぞれの意見に対する理由付けや方法を、既習事項を元に導き出している。
- C：京都市の景観を守ること、および、新しい京都市のまちづくりを創造することについて多面的・多角的な思考が不足しており、それぞれの意見に対する理由付けや方法があいまいである。

### 主体的に学習に取り組む態度

京都市の景観保全やまちづくりについて、各自の意見を互いに交流させ、協働的に学びを進め、最終的には、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究し、自分なりの解決策を導き出すことができる。

- A：だれも取り残さない持続可能なまちづくりを目指すに当たって、課題を明確にし、自分なりの解決策を根拠を明らかにして導き出している。
- B：だれも取り残さない持続可能なまちづくりを目指すに当たって、課題を明確にし、自分なりの解決策を導き出している。
- C：だれも取り残さない持続可能なまちづくりを目指すに当たって、課題把握が不明確であり、自分なりの解決策の具体性にかける。

まとめ  
よりよい社会の実現に向けて、自分の考える解決策は、  
A. 自分達だけの利益を求めたり、課題を見つけて自分達だけで解決(たりせぬ)、その地域の環境や、人との状況に合わせて他と協力(合って解決したり)、お互いの異なる文化でも理解する。他人の意見を取り入れて、「誰も取り残さない」というSDGsの実現に向けて関わっていくこと大切だと思う。  
(今回の場合だと自分達というのは京都)  
みんなの意見を聞いて思ったとは、今の京都を大切にし、ながら新しい京都を創造して、これ外で切ったと思った。半分ずつすることで京都の持続可能なまちづくりというのが実現すると思う。

図4 主体的に学習に取り組む態度を測るために記述させた生徒のノート

### (3) 今後の課題

今回のような意見が2分するような話題については、それぞれの立場の意見をはっきりと提示した上で、生徒たちに考えさせた方がよいと思った。つまり、「景観保護派」と「開発推進派」それぞれの考えを述べた京都市住民の意見等を本時で提示できたならば、もっと生徒の思考が豊かになっただろう。

また、本時の生徒の振り返りを基に、実際の京都市の方策を紹介することも考えられる。例えば、「京都市持続可能な都市構想プラン」では、京都市内をエリア分けして開発することが計画されている。このことは、生徒の意見から出た「キーウのための開発区域と京都市の景観保全地区を分ける」という発想と似ているものである。生徒に対して、「君たちが考え出してくれたようなことを実際の社会でもやろうとしているんだよ」と紹介することで、生徒が自分たちと世の中が繋がっていることを実感できることが期待される。

#### <参考文献>

- ・ 田村学『深い学び』東洋館出版社. 2018
- ・ 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』平成29年
- ・ 国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（中学校編 社会）』令和2年
- ・ 京都市ホームページ  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/>（参照 2023-01-19）
- ・ SDGs CLUB（日本ユニセフ協会）ホームページ  
<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>（参照 2023-01-19）
- ・ 国連UNHCR協会ホームページ  
<https://www.japanforunhcr.org/>（参照 2023-01-19）